

至 自
年 年
月 月
日 日

蘇支國境附近ニ於ケル蘇聯邦
無賴徒横行ニ関スル雜纂

第
卷

蘇支國境附近ニ於ケル蘇聯邦
無賴徒横行ニ関スル雜纂

A
6
5
0
4

REEL No. A-0946

0236

アジア歴史資料センター

亞細亞局

(分類) 1.6.4.0.4

第一録

昭和五年九月拾六日

機密公第三三五號

昭和五年九月八日

在滿洲里

領事館事務代理 豊原幸

原 幸

外務大臣男爵 幣原喜重郎 殿



不正越境ソ聯人ニ關スル件

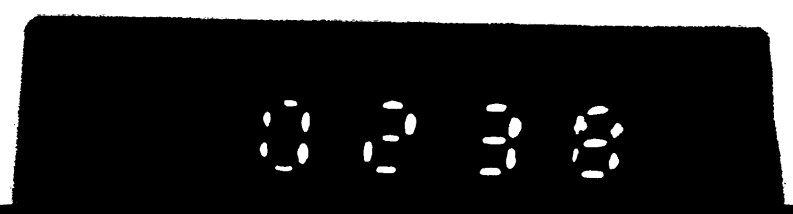
近時ソ聯邦無賴漢力屢々當地方面ソ支國境ヲ不正ニ越境シ支那領ニ
潛入スルトノ風評アル折柄客月三十一日發行哈爾濱白系露字新聞ル

スコエ、スローヴオノ如キハ札頼諾爾通信トシテ最近同地ニアバガ
イト(札頼諾爾ト相對スル露領村落)ヨリ越境シ來ルゲ、ベ、ウノ
密偵員出現シ初ノ札頼諾爾ノ住民ヲソ聯邦ニ拉致シ居ル旨報道シ露
人セノトルーソフ某ノ被害ヲ記載シ居ル處右ニ付キ當館藤者ノ談ニ
依レハ八月十九日アルグン保養地(札頼諾爾市附近ヲ流ル、アルグ
ン河岸)ヲ去ル約五露里ノ地點ニ居住スル白系露人セノトルーソフ
兄弟ノ住居ニアバガイトヨリブロンニコフ某ナル者來リ飲食物ヲ強
請シタルヲ以テセハブノ請ヲ容レ食ヲ與ヘ爾時會談シ居タル際何等
理由ナクシテ突然ハ露國軍人用ノ拳銃ヲ懷中ヨリ引出シ二回發射
シセ兄弟ニ重傷ヲ負セ其儘アバガイト方面ニ逃亡セリ云々此種ノ事
例ハ近時露支監視兵存在セル國境地方ニ於テハ度々行ハレ居ル模様

ニシテソハ何等政治的色彩ヲ有スルモノ、仕業ニハ非スシテ家畜泥
坊ニ類スルソ聯無頼ノ徒カ支那領ニ潛入シ惡事ヲ行ヒ居ルモノト思
考セララルヘシ
右何等御參考迄報告ス

本信寫送付先

- | | | | |
|------|------|----------|----|
| 在露大使 | 在支公使 | 在北平首席 | 奉天 |
| 哈爾濱 | 齊々哈爾 | ノヴオシビルスク | |



本機密第三六三號

昭和六年九月十七日

在齊々哈爾領事 清水八百一

外務大臣男爵幣原喜重郎殿

赤色「バルチザン」及赤系中國馬賊ノ黑龍

江上流地方ニ於ケル策動開始ニ關スル件

在黒河宮崎雅志ノ本月八日附報告ニ依レハ鷗浦縣駐屯保安第八中隊
長ハ黒河警備司令ニ向ヒ手擲彈及拳銃ヲ携帯セル五名ノ便衣露國人
カ客月十九日黒龍河岸ニアル同縣所屬ノ老卡郷屯ニ侵入村民ヲ威嚇
シ屯長宅ヲ襲ヒ屯長夫妻ヲ縛シ附近駐屯ノ中國軍隊數、保衛團ノ有
無、人口及馬匹數等ヲ詳細訊問シ貴重品ヲ掠奪後同屯ヨリ五華里ノ

外務省

6.10

江岸ニアル下地營子ノ船番小屋ニ放火シ對岸ニ引揚ケタリ番人金某

ハ驚駭ノ餘リ逃走シ行衛不明ナル旨報告シ來レリ依テ黒河市政籌備

處ハ數日前同地駐在蘇聯領事代理ニ向ヒ抗議ヲ提出シタルカ未タ同

領事代理ヨリ何等ノ回答無キモ恐ラク白系「バルチザン」ノ行爲ナ

リトシテ之ヲ一蹴シ却テ白系露國人ノ取締ヲ要求シ來ルヘク想像ス

ル向多シ又武市駐在中國領事ヨリ同地ニ根據ヲ置ク赤系中國馬賊徐

有及王瘦子ノ部隊カ上流地方ニ出動セル旨報告アリタルニ依リ黒河

警備司令部ハ客月下旬歩兵一連ヲ上流古站地方ニ急派セリ同馬賊團

ハ客月下旬三道卡附近ニ於テ汽船蘇州號ヲ襲ヘルモ幸ヒ同船ハ危機

ヲ脱シ歸黑シ本月四日乘組ノ護勇以外ニ軍隊一排ヲ乗船セシメ漠河

ニ向ケ出帆セリ赤系馬賊ハ黒龍江ノ結氷期及其ノ前後ニ出沒スルヲ

外務省

6.10

常トシ中國側ハ屢次蘇聯側ニ之カ引渡シヲ要求スルモ目的ヲ達セス
被害ハ年々増加ノ傾向ニアルヲ以テ本春黑河ヨリ騎兵一團ヲ呼瑪ニ
移駐シ警備ニ當ラシメ居ルモ討伐ノ成績舉ラス依然彼等ニ惱マサレ
居ル由ナリ

右何等御参考迄報告ス

本信寫送付先 在露大使 在華公使 北平首席

奉天・吉林・哈爾濱各總領事 滿洲里領事

關東廳

外務省